施工手順①～③

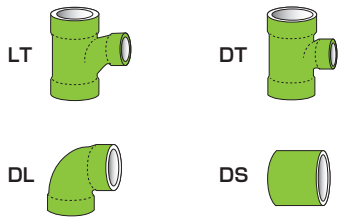
国土交通省大臣認定:PS060FL-0264(床)　PS060FL-0357(床)　PS060WL-0308(壁)　PS060WL-0320(中空壁)　PS060WL-1115(片壁)
(一財)日本消防設備安全センター評定:KK19-039号(床)(共住区画)KK19-141号(床)(共住区画)KK19-040号(壁)(共住区画)KK19-041号(中空壁)(共住区画)

1 施工前の準備

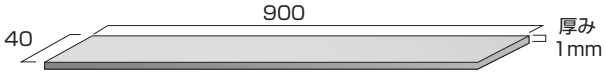
直管 JIS K 6741 硬質塩化ビニル管(VU、VP)

継手 JIS K 6739 排水用硬質塩化ビニル管継手 (DV)

塩化ビニル管継手協会規格 AS-38 屋外排水設備用硬質塩化ビニル継手 (VU)



ジョイントテープ (色：グレー)　サイズ：40×900mm



貫通部処理テープ※　サイズ：40×900mm　60×900mm　120×900mm　200×900mm

※国土交通大臣認定書及び(財)日本消防設備安全センター性能評定書では、耐火テープと表記しております。

区画貫通部分の直管と継手には下表を参考に貫通部処理テープを巻き付けてください。

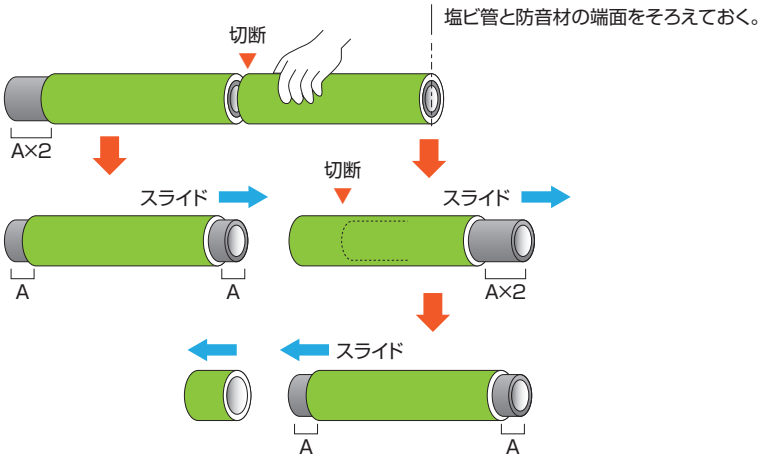
テープ幅	適合品種
200mm	直管　(床厚120mm以上)
120mm	直管　(床厚100mm以上)
60mm	継手 呼び径100の品種　(DTシリーズを除く)
40mm	継手 呼び径75の品種、DTシリーズ

2 直管の切断

⚠ 表面のフィルムは、はがさないで下さい。

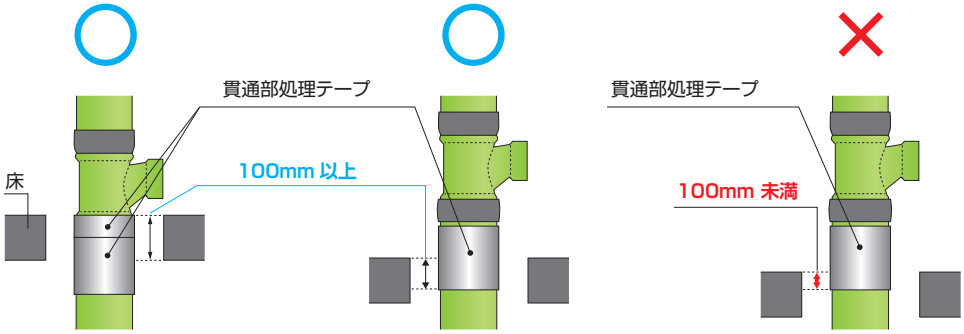
⚠ シャーパー等で切断するときは手でしっかり押さえ、中の塩ビ管が回転しないようにして下さい。

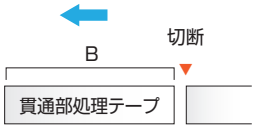
呼び径	Aの寸法
40	22mm
50	25mm
65	35mm
75	40mm
100	50mm
125	65mm



3 区画貫通部の施工（床貫通の例）

区画貫通部の施工には、必ず、貫通部処理テープが必要です。ジョイント部が、床の貫通部分に入る場合、ジョイントテープではなく、必ず貫通部処理テープを巻いてください。貫通部処理テープは貫通部に 100mm 以上埋設してください。

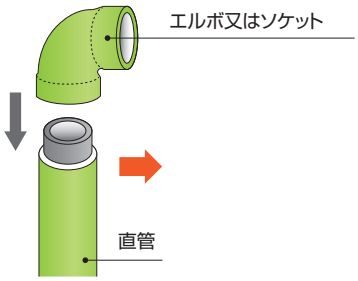




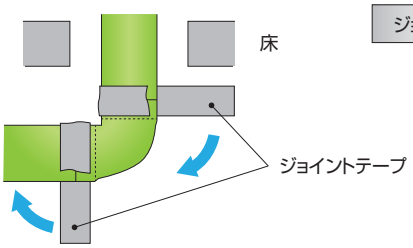
呼び径	B の寸法
50	300mm
65	450mm
75	450mm
100	450mm
125	600mm

4 排水管の接続

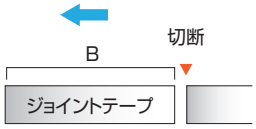
⚠ ・ジョイントテープが、貫通部に入らないよう巻いてください。
・防音性能が低下しないよう、引っ張らずに巻いてください。



接着剤を塗り、直管と継手をつなぐ。
その際、防音材の継ぎ目に隙間ができないように施工してください。



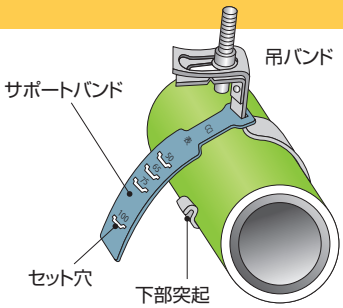
離型紙をはがし、継ぎ目に巻く。



呼び径	Bの寸法
40	300mm
50	300mm
65	450mm
75	450mm
100	450mm
125	600mm

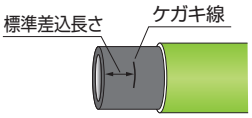
5 支持金具の取り付け

⚠ 支持金具の締めすぎは
防音性能の低下につながります。



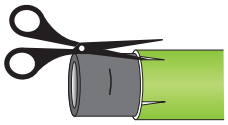
共通支持金具の吊バンドを使用して、管をしっかりと固定する。
その際、サポートバンドに管サイズが表記されているので、管サイズに合ったセット穴を下部突起にはめ込む。

6 伸縮継手と直管の接続

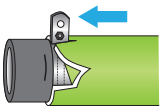


直管を必要な長さに切断し、伸縮継手の標準差込長さをケガキする。

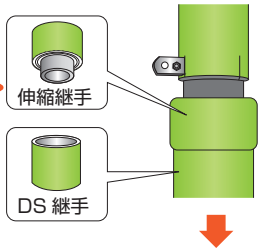
呼び径	標準差込長さ
50	40mm
75	55mm
100	65mm



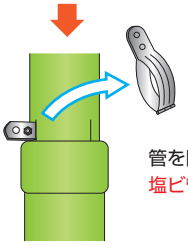
防音材の周囲4ヶ所に3㎝の切込みを入れる。



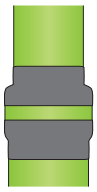
防音材が自重で下がらないよう塩ビ管用の立バンドを使って、ケガキ線のところで仮止めする。
防音材をケガキ線まで、スライドさせる。



伸縮継手に管をケガキ線の位置まで挿入する。



管を固定後、仮止めした塩ビ管用立バンドを外す。



継ぎ目にジョイントテープを巻く。

ご使用の前に必ずお読みください。

保管

◎屋内で保管して下さい。

●屋外で保管すると熱で管が変形し、使用不能になる恐れがあります。
●やむをえず屋外に仮置きする場合は直射日光を避け、
水滴等が付着しないようビニールシート等をかぶせてください。

◎直管は段積みせず、結束単位で横置きに保管してください。

●崩れないよう防止策をしてください。
やむをえず立てかける場合も、転倒防止策を施してください。

荷扱い

◎安易な荷扱いは危険です。

●結束した管は重いので安易に扱うと危険です。怪我をしないよう十分注意してください。

残材・廃材の処理

◎焼却処理をしないでください。

●塩ビ管は有害な塩化水素ガスが発生するので、現場では絶対に燃やさないでください。

◎廃材処理は法令、及び地方自治体条例に従ってください。

施工

◎表面のフィルムを剥がさず、そのままお使いください。

◎有機薬品の付着にご注意ください。

●有機薬品により材質が侵される恐れがありますので、次のようなものには接触させないでください。
クレオソート（木材用防腐剤）、白アリ駆除剤、殺虫剤、塗料等

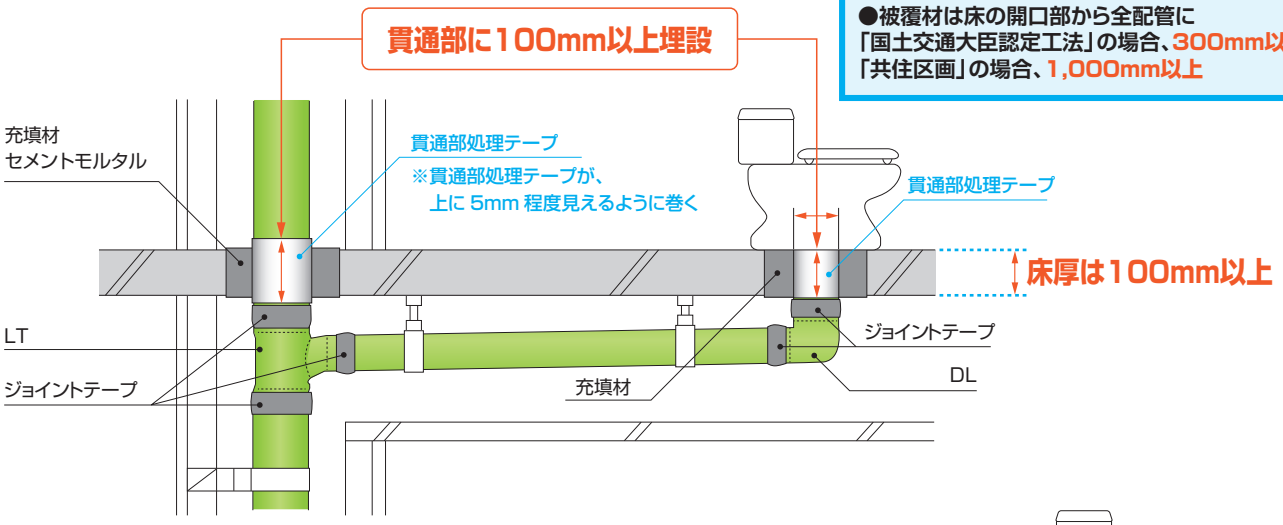
国土交通省大臣認定・(一財)日本消防設備安全センター評定(ALC・RC)

床貫通の配管の施工例

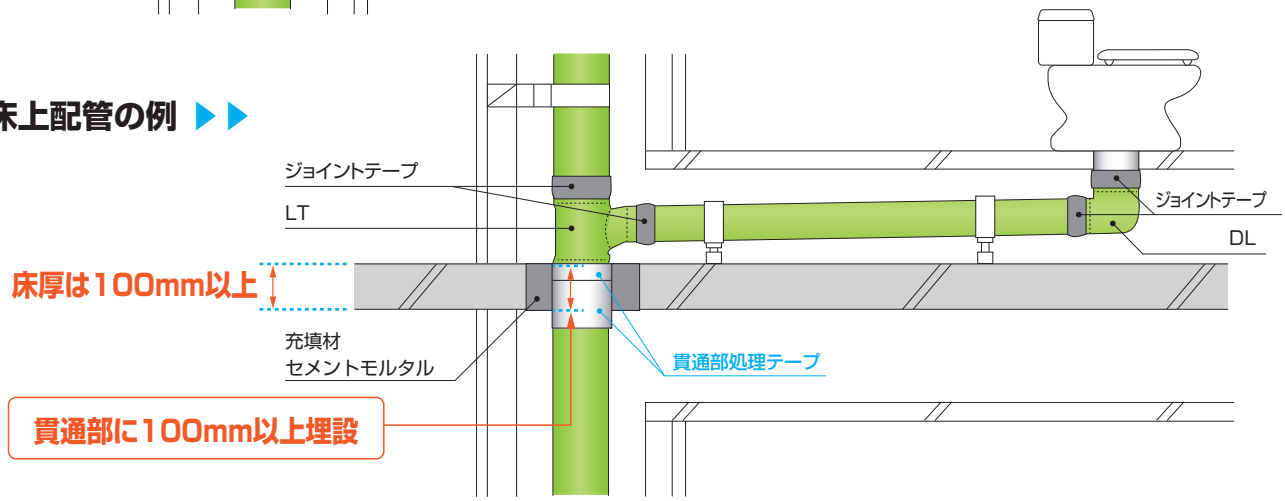
床貫通の施工ポイント(認定条件)

- ●床厚は100mm以上必要
- ●貫通部処理テープは貫通部に100mm以上埋設
- ●被覆材は床の開口部から全配管に
  「国土交通大臣認定工法」の場合、300mm以上
  「共住区画」の場合、1,000mm以上

床下配管の例 ▶▶



床上配管の例 ▶▶



重要 国交省大臣認定、及び
(一財)日本消防設備安全センター性能評定書より抜粋

	耐火音ナイン呼び径	開口径	
		ホールソー径(mm)(ALC床)	ボイド管呼び径(コンクリートスラブ床)
直管	125	182	175
	100	165、160、155	150
	75	140、130、125	150、125
	65	120、115、110	150、125
	50	100、95、90	100、90
	40	90、85、80	90、75
継手	125	180	175
	100	160、155、150	150
	75	130、125、120	150、125
	65	115、110、105	125、100
	50	100、95、90	100、90
	40	85、80、75	90、75

- ●上記の表は、認定条件(占積率:直管75.4%以下、継手88.3%以下)を満たすサイズとなっています。
- ●継手が貫通部に埋設される場合は、継手のサイズを参考にしてください。

⚠ 要注意― 床の構造 ―

ALCパネル、または、鉄筋コンクリートの床の厚さは、100mm以上あるものに施工してください。(認定条件)

⚠ 注意点

①床の開口部

耐火音ナインの呼び径に合わせて、開口部の穴の直径が、左の表のいずれかのサイズになるように施工してください。(認定条件)

②貫通部の処理

貫通部において貫通部処理テープが100mm以上埋め戻されるよう巻き付けたうえ、セメントモルタルを充填し、埋め戻してください。

③埋設が可能な継手

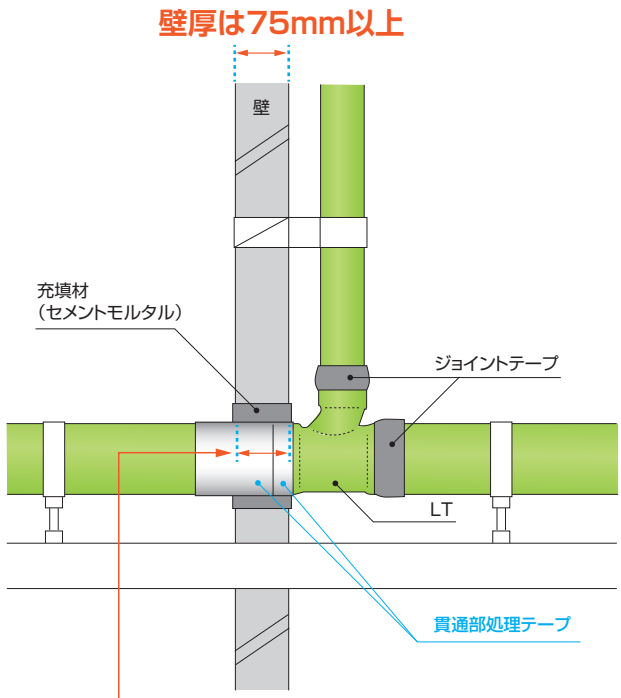
DT、LT、DS のみ埋設が可能です。

④伸縮継手の使用

施工後の温度変化による熱伸縮のトラブルを防止するため、必ず伸縮継手(ES) をご使用ください。

国土交通省大臣認定・(一財)日本消防設備安全センター評定(ALC・RC)

壁貫通の配管の施工例



壁貫通の施工ポイント(認定条件)

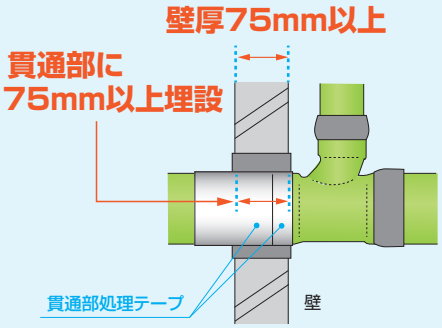
●壁厚は75mm以上必要

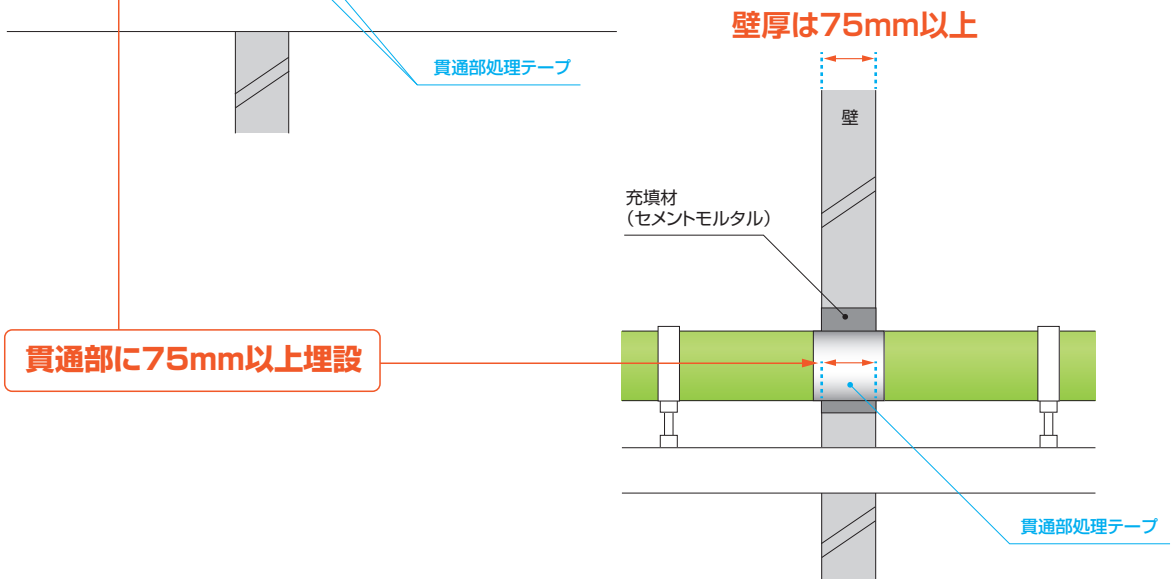
●貫通部処理テープは貫通部に75mm以上埋設

●被覆材は床の開口部から全配管に

「国土交通大臣認定工法」の場合、300mm以上

「共住区画」の場合、1,000mm以上





重要 国交省大臣認定、及び
(一財)日本消防設備安全センター性能評定書より抜粋

	耐火音ナイン呼び径	開口径	
		ホールソー径(mm)(ALC壁)	ボイド管呼び径(コンクリートスラブ壁)
直管	100	158	150
	75	150、140、130	150、125
	65	125、120、115	150、125
	50	105、100、95	100、90
	40	90、85、80	90、75
継手	100	160、155、150	150
	75	125、120、115	150、125
	65	115、110、105	125、100
	50	95、90、85	100、90
	40	85、80、75	90、75

●上記の表は、認定条件(占積率:直管69.8%以下、継手87.8%以下)を満たすサイズとなっています。
●継手が貫通部に埋設される場合は、継手のサイズを参考にしてください。

⚠ 要注意― 壁の構造 ―

ALCパネル、または、鉄筋コンクリートの壁の厚さは、75mm以上あるものに施工してください。(認定条件)

⚠ 注意点

①床の開口部

耐火音ナインの呼び径に合わせて、開口部の穴の直径が、左の表のいずれかのサイズになるよう施工してください(認定条件)

②貫通部の処理

貫通部において貫通部処理テープが75mm以上埋め戻されるよう巻き付けたうえ、セメントモルタルを充填し、埋め戻してください。

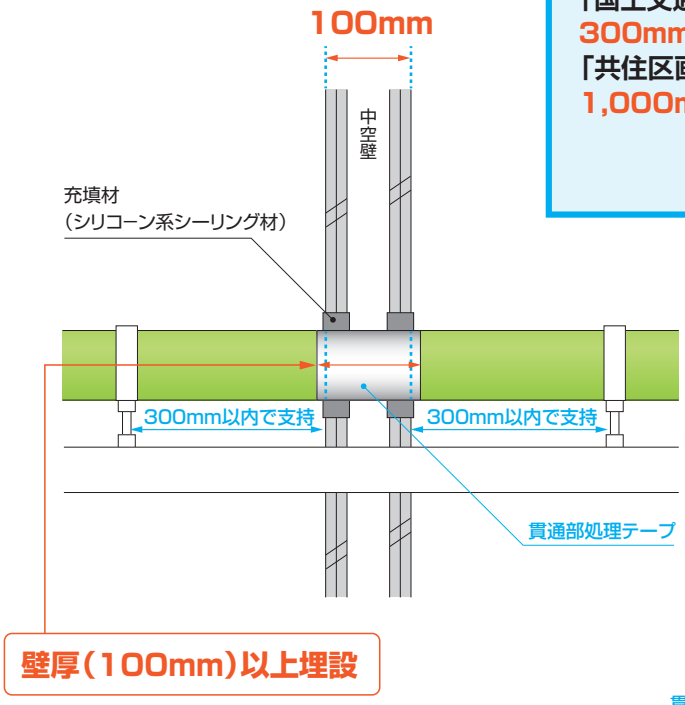
③埋設できない継手

伸縮継手、SS 継手は区画貫通部に埋設しないでください。

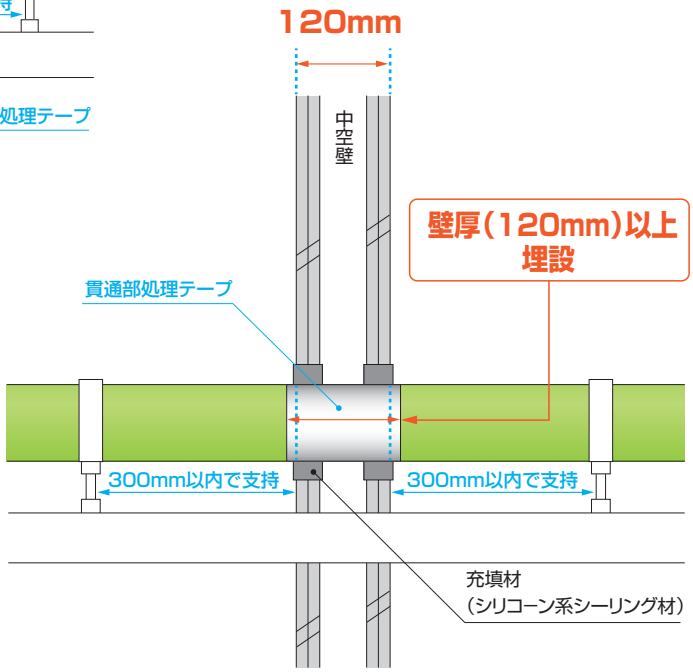
国土交通省大臣認定・(一財)日本消防設備安全センター評定(ALC・RC)

中空壁貫通の配管の施工例

壁厚100mmの例 ▼

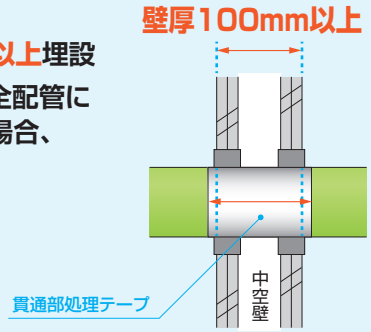


▼ 壁厚120mmの例



中空壁貫通の施工ポイント(認定条件)

- ●壁厚は100mm以上必要
- ●貫通部処理テープは壁厚以上埋設
- ●被覆材は床の開口部から全配管に
  「国土交通大臣認定工法」の場合、
  300mm以上
  「共住区画」の場合、
  1,000mm以上



重要 国交省大臣認定、及び
(一財)日本消防設備安全センター性能評定書より抜粋

	耐火音ナイン呼び径	開口径 ホールソー径(mm)
直管	100	150
	75	125
	65	112
	50	96
	40	84

●上記の表は、認定条件を満たすサイズとなっています。(占積率:直管77.5%以下)

⚠ 要注意 ― 中空壁の構造 ―

中空壁の厚さが、100mm以上あるものに施工してください。(認定条件)

⚠ 注意点

①中空壁の開口部

耐火音ナインの呼び径に合わせて、開口部の穴の直径が、左の表のいずれかのサイズになるよう施工してください。(認定条件)

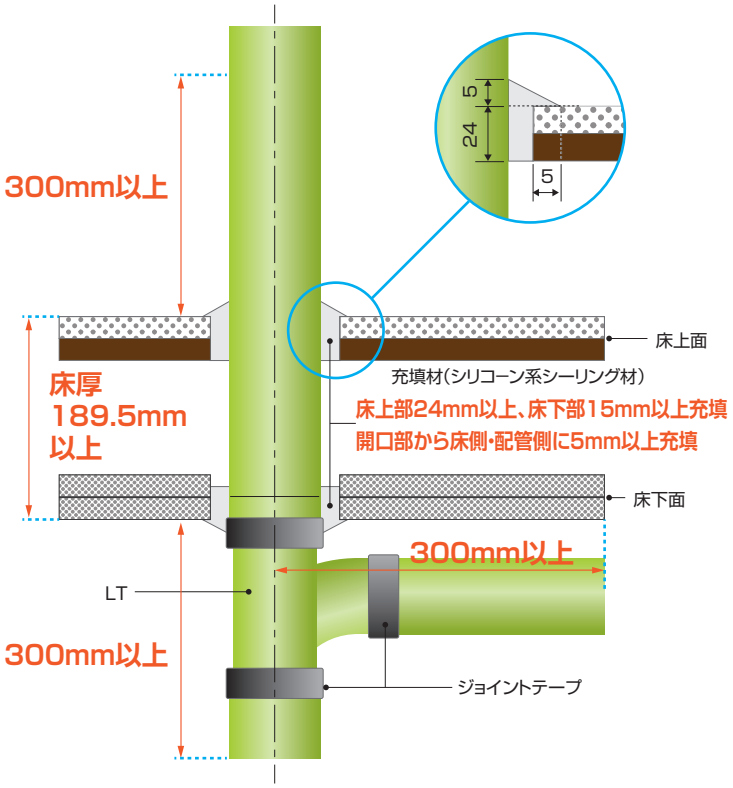
②貫通部の処理

貫通部において貫通部処理テープが壁厚以上に埋め戻されるよう巻き付けたうえ、シリコーン系シーリング材を充填し、埋め戻してください。

国土交通省大臣認定　木造準耐火構造（60分）

床貫通の配管の施工例

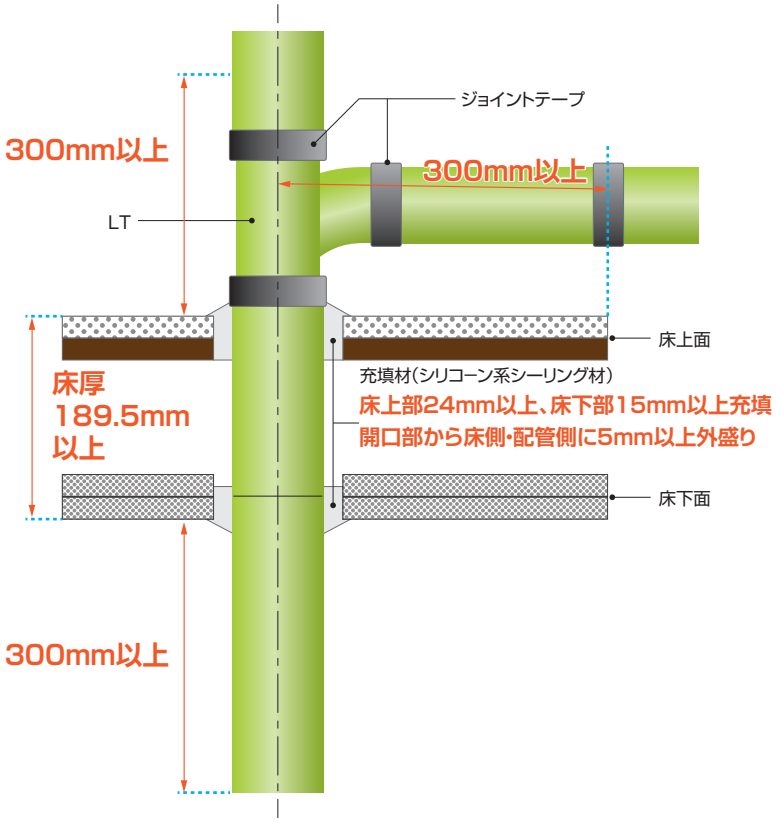
中空床下面に継手の配管例（直管）▼



中空床貫通の施工ポイント
（木造準耐火60分認定条件）

- ●床厚は189.5mm以上必要
- ●開口部の直径は152mm以下
- ●被覆材は床の開口部から全配管に300mm以上である事を確認
- ●被覆材の端部はジョイントテープで1周以上巻き付け
- ●床開口部のシーリング材は、開口部と耐火音ナインの隙間に床上部は24mm 以上、床下部は15mm 以上になるように充填する。
  充填後、開口部から床側・配管側に5mm 以上外盛りする

中空床上面に継手の配管例（継手）▼



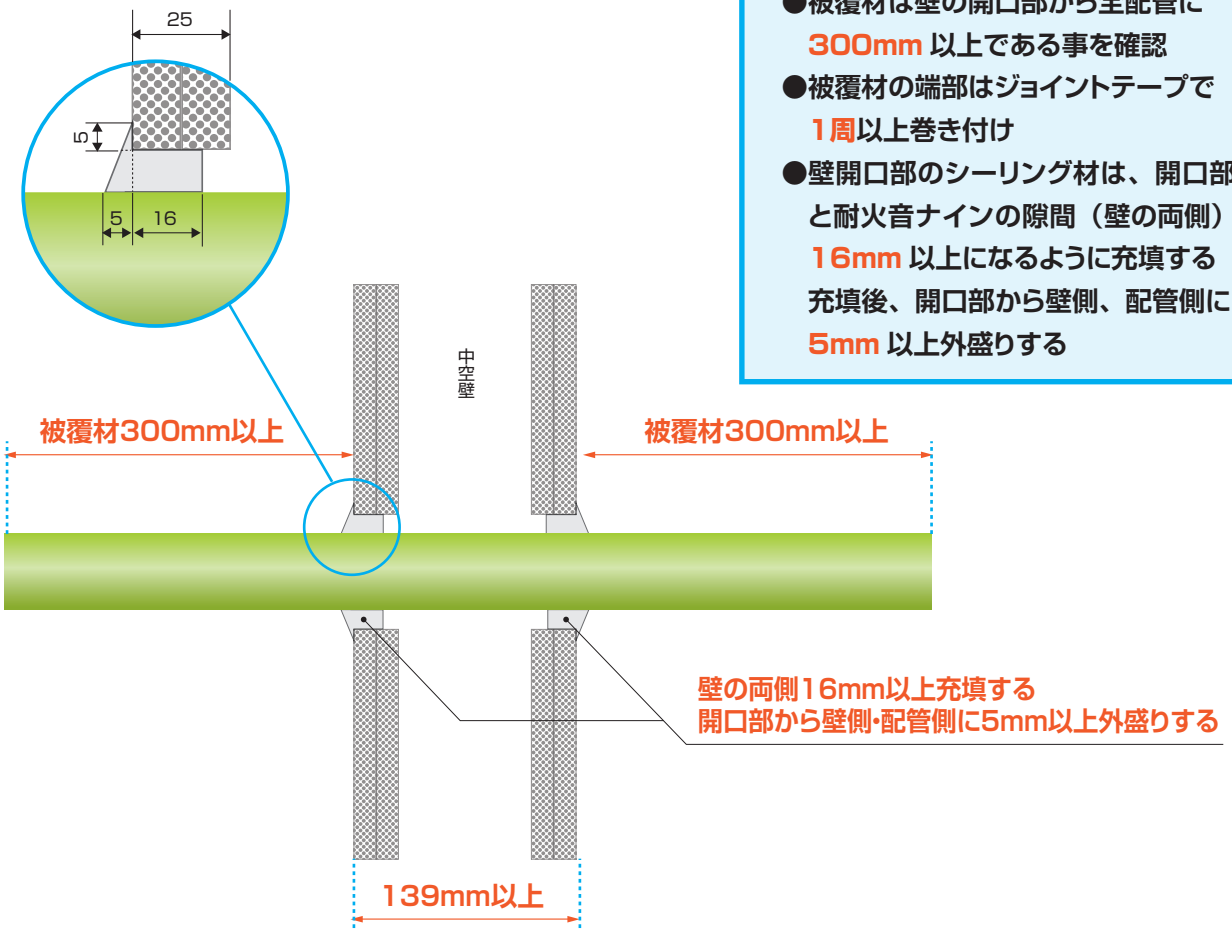
国土交通省大臣認定　木造準耐火構造（60分）

壁貫通の配管の施工例

中空壁貫通の施工ポイント
（木造準耐火60分認定条件）

- ●壁厚は139mm 以上必要
- ●開口部の直径は152mm 以下
- ●被覆材は壁の開口部から全配管に300mm 以上である事を確認
- ●被覆材の端部はジョイントテープで1周以上巻き付け
- ●壁開口部のシーリング材は、開口部と耐火音ナインの隙間（壁の両側）16mm 以上になるように充填する
  充填後、開口部から壁側、配管側に5mm 以上外盛りする

中空壁の配管例（直管）▼



適用範囲

項目		適用範囲		
		床貫通		壁貫通
		直管	継手	直管
躯体	種類	木造中空（面材適用表を参照）		
	厚さ	189.5mm以上		139mm
	開口径	φ152mm以下		
	充填材	シリコーン系シーリング材（JIS A 5758適合品）		
	配管と開口部の隔間	2.0～10.5mm	2.0～7.5mm	2.0～10.5mm
配管	管種	耐火音ナインVU･VP		
	呼び径	40, 50, 65, 75, 100		

適用開口部

単位:mm

呼び径	ホールソー径（直管貫通）	ホールソー径（継手貫通）
40	70, 75	70
50	80, 85	85
65	95, 100, 105	100, 105
75	110, 115, 120	120
100	140, 150	140, 150